

**製品名: IKKy (リン酸化 Ser31) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04830**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IKBKG IKBKG; FIP3; NEMO; NF-kappa-B essential modulator; NEMO; FIP-3; Ikb kinase-associated
別名	protein 1; IKKAP1; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit gamma; I-kappa-B kinase subunit gamma; IKK-gamma; IKKG; Ikb kinase subunit gamma; NF
遺伝子 ID	8517.0
SwissProt ID	Q9Y6K9
免疫原	抗血清は、Ser31 のリン酸化部位周辺のヒト IKK- $\gamma$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 16-65

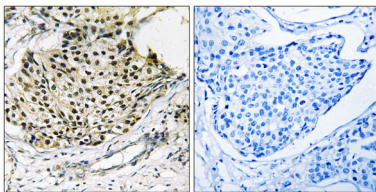
## 背景

この遺伝子は、 $\kappa$ B キナーゼ阻害因子 (IKK) 複合体の調節サブユニットをコードしており、NF- $\kappa$ B を活性化することで、炎症、免疫、細胞生存、その他の経路に関与する遺伝子の活性化を引き起こします。この遺伝子の変異は、色素失調症、低汗性外胚葉性異形成症、その他いくつかの免疫不全症を引き起こします。この遺伝子座に非常に類似した偽遺伝子が、X染色体の隣接領域に位置しています。[RefSeq 提供、2016年3月]

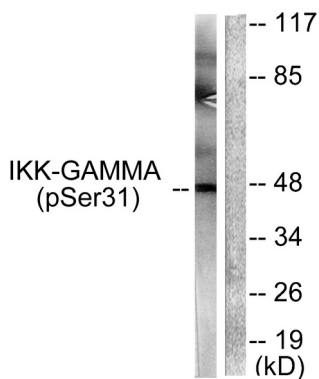
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;ケモカイン;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;Toll\_Like;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;T 細胞受容体;B 細胞抗原;アディポサイトカイン;ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;がんにおける経路;膵臓がん;前立腺がん;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;小細胞肺がん;原発性免疫不全;

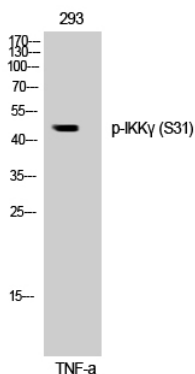
## 画像データ



IKK- $\gamma$  (リン酸化 Ser31) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF- $\alpha$  20 ng/ml 5 'で処理した 293 細胞ライセートの IKK- $\gamma$  (リン酸化 Ser31) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 IKK $\gamma$  (S31) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析